

高齢者のせん妄予防ケアに関する研究 —せん妄ケアの質評価指標の開発—

看護学科 老年看護学領域 長谷川 真澄 教授



Q. どのような研究をされていますか？

A. 高齢者に多くみられるせん妄の予防ケアの質を向上させるために、病院の看護師が行うケアの内容を評価するための指標を開発する研究に取り組んでいます。せん妄とは、体調不良や入院などをきっかけに、急激な脳機能の低下によりさまざまな精神神経症状がみられる意識障害の1つです。具体的には、注意力の低下、日時や場所がわからなくなる見当識障害、興奮あるいは無気力になるなど感情の変動、睡眠障害、幻覚・妄想など多彩な症状がみられます。高齢者や認知症などの脳の病気の既往がある人がせん妄を起こしやすく、肺炎や脱水などの体の病気、薬の副作用、環境の変化、精神的ストレスなど、いろいろな要因が複雑に関連して発症します。せん妄を治療する薬はなく、要因となる体の病気を回復させたり、心身の苦痛を取り除いたり、心地よく過ごせるよう環境を整えるケアを個々の患者さんに合わせて実践する必要があります。これらの看護ケアを看護師がどのような思考に基づき、どのように実践すればよいのかの指針となる指標を開発することを目指しています。

Q. これまでどのような研究をされてきましたか？

A. これまで、せん妄の発症要因に関する研究、病棟のせん妄予防ケアシステムを構築するアクションリサーチ、多職種によるせん妄ケアチームの構築プロセスに関する研究に取り組んできました。これらの研究成果に基づき、看護師がせん妄ケアの基本を理解し、適切に患者さんの症状をアセスメントするためのツールの使用方法を学習する教材としてDVD制作や書籍を出版しました。



また、上述のせん妄ケアの質評価指標の開発の第1段階として、せん妄の予防や発症時のケアを看護師がどのような思考に基づいて実践しているのかを、エスノグラフィという質的研究法を用いて明らかにしました。その結果、せん妄の予防や改善には、患者に安心感をもたらす人間的な相互作用を基盤にしながら、入院治療環境におけるストレスや基本的ニーズをアセスメントし、その人の普段の生活パターンを維持し、心地よく快適に過ごせるように援助することの重要性が示唆されました。

Q. 将来の展望をお聞かせください。

A. 超高齢社会では、高齢者や認知症をもつ人が更に増加することから、病院だけでなく在宅療養する人のせん妄の早期発見や早期対応も重要になります。一般の方にもせん妄について知ってもらえるよう活動していきたいです。また、COVID-19感染拡大により、家族の面会が制限されたり、看護師の教育研修も対面では難しい状況が続いています。人とのコミュニケーション方法が大きく変化する中、患者さんに安心感や快適をもたらすコミュニケーション方法や療養環境を探求すること、非対面による看護師へのせん妄ケア教育を充実させるためにe-ラーニング教材を開発することが今後の課題と考えています。

もう少し知りたい!と思った方はこちらへ

- 看護学科老年看護学領域 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/ns/ns_rounen.html

- 大学院保健医療学研究科看護学専攻老年健康看護学分野 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/g_ns/g_ns_rounen-kenkou.html